

シンガポール NIE における 美術教育ディプロマカリキュラム

佐々木 宰*・福田 隆眞・宮園 裕二**

The Curriculum of 'Diploma in Art Education' of NIE in Singapore

Tsukasa SASAKI*, Takamasa FUKUDA and Yuji MIYAZONO**

(Received October 15, 1999)

キーワード：シンガポール、教員養成、NIE、美術教育、カリキュラム

目次

はじめに

- 1 シンガポールの教員養成機関：NIEの概要
- 2 NIEのカリキュラム構成
- 3 美術教育のカリキュラム
- 4 まとめ

はじめに

本稿は、東南アジア諸国の美術教育調査研究の一環として、シンガポールの教員養成における美術教育を、同国の教員養成機関のカリキュラムを通して報告するものである¹⁾。

シンガポールの教員養成は、National Institute of Education (国立教育研究所：NIEと略称される。以下、NIEと記す。)において行われている。ここでは、初等学校 (Primary School) と中等学校 (Secondary School) の教員養成及び現職教員の研修などが行われている。

NIEは、組織としてはNanyang Technological University (南洋工科大学：NTUと略称される。以下、NTUと記す。)に属するインスティテュートとして機能している。したがって、一般的な教員養成レベルであるディプロマ課程とともに、学術的な要求を満たす学士レベル、修士レベルの課程も設定されている。

本稿では、主としてディプロマ課程における美術教育コースのカリキュラムに焦点を当て、全体的なカリキュラム構成と、美術教育の具体的な内容について述べる。カリキュラムに関する情報は、NIEが発行している概要²⁾とシラバス³⁾、同校美術科助教授Jane Loeng Wai Yeeとの面談⁴⁾に基づく。

*北海道教育大学釧路校

**山口大学大学院教育学研究科

1 シンガポールの教員養成機関：NIEの概要

NIEは、1991年7月1日、NTUのインスティテュートとして創設された。それ以前は、Ministry of Education（教育部：わが国の文部省に相当する。MOEと略称される。）に属する機関であった。

NIEは、教員養成の充実とともに、教育や体育、人文・科学における学術的な専門性をもった大学の研究所となることを目標としている。具体的には、1）教師や学校のリーダーに、教育や学校運営に必要な専門的知識・技術を与えること、2）教育、体育、人文・科学、における学術的なプログラムを提供すること、3）教育、体育、人文・科学、またその他教師教育に関連する学問の研究に携わること、4）政府や社会の必要に対応して教育や専門的なプログラムを提唱すること、などである。

こうした理念のもとに、ディプロマから、学士、修士まで多様な課程やプログラムが設定されている。それらは以下のようになっている。

〈4年制学士課程〉

大学教育と卒業後教員として必要な技術を提供する。以下のコースが選択でき、また優等学位課程（honors course）に進むこともできる。

- ・ Bachelor of Arts with Diploma in Education [BA with Dip Ed]
- ・ Bachelor of Science with Diploma in Education [BSc with Dip Ed]

〈ディプロマ課程〉

入学資格、卒業後の学校種などによって以下のようなコースが設定されている。

- ・ Postgraduate Diploma in Education [PGDE]：大学卒業者を対象としている。中等学校、初等学校で教えるための、また体育を教えるための専門教育が行われる。
- ・ Diploma in Education [Dip Ed]：GCEのAレベル取得者⁵⁾、ポリテクニクのディプロマ取得者を対象としている。初等学校で教えるためのコース。
- ・ Diploma in Physical Education [Dip PE]：GCEのAレベル取得者を対象としている。初等学校または中等学校において体育を教えるためのコース。ポリテクニクのディプロマ取得者も対象とする。その場合は、初等学校において体育を教えるためのコースとなる。
- ・ Diploma in Art/Music /Home Economics Education [Dip Art/Mus/HE Ed]：ポリテクニク、南洋芸術学院、ラサールSIA芸術カレッジのディプロマ取得者を対象としている⁶⁾。中等学校において美術、音楽、家庭経済を教えるためのコース。

〈その他のプログラム〉

上記のほかに、現職の学校教員や、大学、ポリテクニクの講師を対象とした専門的な職業教育プログラムが設定されている。

- ・ Postgraduate Diploma of Teaching in Higher Education [PGDip THE]：ポリテクニクや大学の講師・スタッフ向けに設定されている。
- ・ Diploma in Educational Administration [DEA]：校長、副校長などの管理職になるための準備教育として設定されている。
- ・ Further Professional Diploma in Education [FPDE]：学校教員が、部局の長となるための準備教育として設定されている。

〈大学院課程〉

以下の学位を授与する。

Master of Arts : 文学修士

Master of Science : 理学修士

Doctor of Philosophy : 哲学博士

Master of Arts in Applied Linguistics : 応用言語学修士

Master of Education : 教育学修士

Master of Arts (Applied Psychology) : 文学修士 (応用心理学)

Master of Arts (Educational Management) : 文学修士 (教育経営学)

2 NIEのカリキュラム構成：美術教育コースを例に (Diploma in Art Education)

ここでは、ディプロマ課程 (Diploma in Art Education [Dip Art Ed]) における全体的なカリキュラム構成について、美術教育コースを例として紹介する。

ディプロマ課程の教育内容は、全学生共通の必修科目と、専攻別の選択 (専攻) 科目から構成される。これらを、2年間で57単位 (1年目に25単位、2年目に32単位) 履修しなければならない。

内容種別にみると、次のようなカリキュラム構成になっている。

1) 教育研究科目 (Education Studies)

教育研究科目は、全ての学生に共通する履修する必修領域である。学校における教授や実践のための教育原理や理論を学ぶ。

2) 教育課程科目 (Curriculum Studies)

必修である。中等学校教育のための専攻科目の教科教育を学ぶ。

3) 専門科目 (Academic Studies)

専門科目は、自分の専攻する科目についての専門的・学術的な内容を学ぶ。

4) 教育実習 (Practicum)

必修かつ共通科目であり、最も重要なものとされる。学校における様々な状況の中で教育者としての資質をのばす機会を与えることを目的とする。NIEの指導教官と協力校の教師の指導・監督のもとに、指導計画を立案、教室での実践を行い、基本的な教育技術を身につけさせるものである。

5) 言語訓練と学術論文の技法 (Language Enrichment and Academic Discourse Skills)

英語のオーラル及びライティングの向上を目的としている。

カリキュラム構成は、次の表のようにになっている (美術教育コースの例)。

1年

領域/科目	科目コード	題 目	単位数
教育研究科目			
	SED113	指導技術（導入）	2
	SED114	講読（導入）と教授Ⅰ	3
	SED115	講読（導入）と教授Ⅱ	2
教育課程科目			
美術教育	SCA120	デザインⅠ	2
	SCA121	絵画と素描Ⅰ	2
	SCA122	コンピュータとメディア研究	2
	SCA123	陶芸Ⅰ	2
専門科目			
美術	SAA120	美学と芸術の過程	2
	SAA121	美術批評と文脈研究	2
	SAA122	東洋美術史概説	2
	SAA123	西洋美術史概説	2
教育実習			
	SPR110	教育実習Ⅰ*	0
言語訓練と学術論文の技法			
教育における英語使用	SCU110	教育における英語の使用（オーラル）	2

2年

領域/科目	科目コード	題 目	単位数
教育研究科目			
	SED211	教育の社会的文脈と講読	2
	SED213	教育評価と講読	2
教育研究科目（選択Ⅰ）			
	SED250	複合能力クラスにおける教授	2
	SED253	クラスにおける学習と個人差	2
	SED254	生徒の思考と学習の向上方策	2
	SED256	クロスカリキュラムにおける道徳的事項	2
	SED257	指導のためのメッセージデザイン	2
	SED260	精神的助言と進路指導	2
	SED261	学習における生徒の興味の刺激	2
教育課程研究			
美術教育	SCA220	版画	1
	SCA221	絵画と素描Ⅱ	1
	SCA222	彫刻と3D	2
	SCA223	陶芸Ⅱ	2
専門科目			
美術	SAA220	美学と芸術の過程Ⅱ	1.5
	SAA221	美術批評と文脈研究Ⅱ	2.5
	SAA222	学術的訓練Ⅰ	1
	SAA223	美術理論演習Ⅰ	1
	SAA224	美術理論演習Ⅱ	1
	SAA225	学術的訓練Ⅱ	1
教育実習			
	SPR110	教育実習Ⅱ	10
言語訓練と学術論文の技法			
教育における英語使用	SCU110	教育における英語の使用（ライティングによるコミュニケーション）	2

3 美術教育のカリキュラム

前章のカリキュラム構成表でわかるように、NIEにおける美術教育のカリキュラムは、教育課程研究と専門科目から成り立っている。以下には、それぞれの科目の内容を紹介する。

〈教育課程研究：美術教育〉

SCA120 デザイン I

中等学校における教育のためのデザイン理論と実践の基礎を紹介し、探求する。視覚的な問題を整理したり、個人の創造的思考を理解する。

SCA121 絵画と素描 I

絵と素描において用いられる様々な素材や技法を紹介する。一連の視覚的な問題を通して個人の創造のプロセスを高める。それは中等学校段階での教授方法を高めることにもつながる。

SCA122 コンピュータとメディア研究

ビデオやコンピュータアートなど、電子メディアを使った操作の実習。美術におけるテクノロジーの歴史的役割、美術教授の創造における多様なテクノロジーの使用について。

SCA123 陶芸 I

中等学校段階に適用できる加飾・施釉・焼成の技術など、陶芸における制作工程。一連の陶芸の問題を通して、個人の創造過程を考える。

SCA220 版画

中等教育のための版画の工程と指導方法。一連の視覚的な問題を通して、技術を紹介し、個人の創造過程を考える。

SCA221 絵画と素描 II

中等学校段階の指導に適した技術、素材や技法の理解などをより深く学ぶ。継続的なプロジェクトを通して、絵画と素描の特殊な領域を展開させる。

SCA222 彫刻と3D

中等学校段階に適した様々な素材による立体の学習と、その技術、理解、知識。一連の視覚的な問題を通して個人の創造過程を考える。

SCA223 陶芸 II

陶芸に関する技術、知識、制作をより発展的に学ぶ。陶芸領域における個人の興味を追求する機会を与える。

〈専門科目〉

SAA120 美学と芸術の過程 I

社会における美術と美術教育の本質と価値。関連領域、平面作品の演習を加えた視覚言語と哲学の分析。

SAA121 美術批評と文脈研究 I

視覚的環境や美術作品の批評的分析。視覚の科学と心理学、視覚領域の解釈、視覚文化の発展について。特にシンガポールの中等学校美術シラバスにおける、視覚や視覚文化と美術作品の関係、美術教育の展開など。

SAA122 東洋美術史概説

中国、インド、日本など、アジアの美術史における大きな発展について。美術の対象物、多様な文脈、作品が創造された状況などについて。美術史上の時代と多様な文化に底流する美術という概念の変容の関係について。各国における特徴的な形態についての討議。建築、彫刻、ブロンズ、陶芸、絵画、書道などを含む美術の主要な形態について。

SAA123 西洋美術史概説

先史時代から20世紀までのヨーロッパ美術を年代順に概観する。西洋世界における美術の展開：先史美術、エジプト美術、古代ギリシア・ローマ美術、中世美術、ルネッサンスとマニエリスム美術、バロック・ロココ美術、19世紀・20世紀美術—新古典主義、ロマン主義、写実主義、印象派、後期印象派、フォービズム、表現主義、キュビズム、未来派、ダダ・超現実主義、抽象表現主義、ポップアート、最近の動向。

SAA220 美学と芸術の過程 II

視覚的イメージの知覚と解釈の発展的な調査。授業での実践に関する創造性と知覚の心理学について追求し考える。生徒の創造的思考と問題解決の技術をのばすための学習の構成方法について。

SAA221 美術批評と文脈研究 II

視覚文化と美術の文化史、多様な文化における美術批評・評価の関係について。中等学校の美術カリキュラムにおける批評的分析の指導について。

SAA222 学術的訓練

美術の領域における学生の自主的プロジェクト。ビジュアル&パフォーミングアーツ部のスタッフの指導のもとに、特定の問題やテーマを学生が決める。完遂されたプロジェクトは、美術にとって価値のある、学問的に貢献するものになる。

SAA223 美術理論演習 I

美術作品の美的価値を集中的に扱い、学生に視覚芸術のプロセスの理解と制作を促す。美術制作の原理と要素を東洋の美術作品に適用するときに、普遍的な妥当性をもつかどうか検討する。

SAA224 美術理論演習Ⅱ

ここでの活動を通して、美術史の観点や、国際的視野からの作品創造を促す。多様な文化的文脈における制作活動という点についての注意を促す。

SAA225 学術的訓練Ⅱ

美術の領域における学生の自主的プロジェクト。ビジュアル&パフォーマンスアーツ部のスタッフの指導のもとに、特定の問題やテーマを学生が決める。完遂されたプロジェクトは、美術にとって価値のある、学問的に貢献するものになる。

4 まとめ

これまで見てきたように、NIEのディプロマ課程のカリキュラムは、全体的な構成として、わが国の教員養成におけるカリキュラムと多くの類似点をもっていることがわかる。教育研究科目 (Education Studies)、教育課程科目 (Curriculum Studies)、教育実習 (Practicum) などは、わが国で言う「教職に関する科目」に相当し、専門科目 (Academic Studies) は「教科に関する科目」に相当する。言語訓練と学術論文の技法 (Language Enrichment and Academic Discourse Skills) は、学校教育において英語使用を標準とするシンガポール独特の科目であるから、これに相当するものはわが国にはない。

美術教育のカリキュラムは、教育課程科目 (Curriculum Studies) と専門科目 (Academic Studies) から構成されている。教育課程科目は、シラバスの内容から判断すると、わが国でいう美術の教科教育法と、実技などの教科専門を複合したものに相当するものと考えられる。SCA120 (デザインⅠ)、SCA121 (絵画と素描Ⅰ)、SCA122 (コンピュータとメディア研究)、SCA123 (陶芸Ⅰ)、SCA220 (版画)、SCA221 (絵画と素描Ⅱ)、SCA222 (彫刻と3D)、SCA223 (陶芸Ⅱ) の6つの授業が設定されており、美術の具体的な分野や制作活動におけるカリキュラム編成や指導法の教育がなされている。美術の教科教育法を、実際の制作活動に即した形で指導していると考えられる。

一方、専門科目は、SAA120 (美学と芸術の過程Ⅰ)、SAA121 (美術批評と文脈研究Ⅰ)、SAA122 (東洋美術史概説)、SAA123 (西洋美術史概説)、SAA220 (美学と芸術の過程Ⅱ)、SAA221 (美術批評と文脈研究Ⅱ)、SAA222 (学術的訓練)、SAA223 (美術理論演習Ⅰ)、SAA224 (美術理論演習Ⅱ)、SAA225 (学術的訓練Ⅱ) などの授業が設定されている。これらはほとんどが理論的な内容であり、美術史や美学などの美術理論をアカデミックな内容として捉えていることが、わが国とは大きく異なる部分であろう。

ディプロマコースの入学者は、シンガポール国内の美術の専門学校・カレッジにおけるディプロマ取得が前提になっているため、NIEのカリキュラムでは教育における美術指導や美術理論が、実技の習得よりも重視されていると推察できる。したがって、わが国の教員養成系大学及び教員養成系学部における美術カリキュラムと、NIEの美術ディプロマコースのカリキュラムを単純に比較することはできないが、教科における指導法を具体的なレベルで取り上げていくという手法は、わが国の美術教育に不足している部分と言ってもよい。わが国では、教員免許法の改訂により、教科の専門科目の必修単位数が減少したが、今後、教員養成としての教科の専門的な教育内容を考えるにあたって、NIEのカリキュラ

ムは多くの示唆を提供するものである。

わが国の教員養成大学・学部での4年制課程と近似したNIEの課程・コースには、Bachelor of Arts with Diploma in Education [BA with Dip Ed]がある。これについては、紙幅の都合上、稿をあたためて報告することにする。

注

- 1) 本研究は、平成10、11、12年度文部省科学研究費補助金（基盤研究B国際学術調査）「東南アジアにおける美術教育カリキュラム基礎調査研究—マレーシア、シンガポール、インドネシアの事例—」（研究代表者 福田隆眞 研究分担者 佐々木幸 小平征雄、課題番号10041075）の成果の一部である。本稿で紹介する資料は、筆者のこれまでの調査研究を通して得られたもの、1999年8月25日より9月15日に実施した調査によるものである。
- 2) Nanyang Technological University, National Institute of Education, General Information 1998-99, Nanyang Technological University, National Institute of Education, 1998.
- 3) Nanyang Technological University, National Institute of Education, Diploma in Art Education/Diploma in Music Education/Diploma in Home Economics Education 1998-99, Nanyang Technological University, National Institute of Education, 1998.
- 4) 1999年9月13日の取材及び面談。
- 5) GCEは、普通教育終了証（Singapore-Cambridge General Certificate of Education）であり、中等教育終了時に普通レベル（‘O’ level）、標準レベル（‘N’ level）、上級レベル（‘N’ level）別の試験が課される。これらに合格することによって、以降の教育の進路が決定される。
- 6) 南洋芸術学院（Nanyang Academy of Fine Arts）はシンガポールで最も古くからの伝統をもつ私立の芸術学校である。ラサールSIA芸術カレッジ（LaSalle-SIA College of Arts）は比較的新しい私立芸術学校で、美術、音楽、舞踊などの専門教育を行っている。

参考文献

- ・ Nanyang Technological University, National Institute of Education, General Information 1998-99, Nanyang Technological University, National Institute of Education, 1998.
- ・ Nanyang Technological University, National Institute of Education, Diploma in Art Education/Diploma in Music Education/Diploma in Home Economics Education 1998-99, Nanyang Technological University, National Institute of Education, 1998.
- ・ Ministry of Information and the Arts, Singapore 1999, Ministry on Information and the Arts, Singapore, 1999.

付記

本稿は、平成10、11、12年度文部省科学研究費補助金（基盤研究B国際学術調査）「東南アジアにおける美術教育カリキュラム基礎調査研究---マレーシア、シンガポール、インドネシアの事例---」（研究代表者：福田隆眞、研究分担者：佐々木幸・小平征雄、課題番号：10041075）の成果の一部に基づく。

本稿の執筆に関しては、第1章を福田が、第2章と第4章を佐々木が、第3章を宮園が

担当し、全体を佐々木と福田がまとめた。

なお、本研究の調査に関して、次の方々の協力をいただいた。ここに感謝の意をあらわします。

Ms. Jane Leong Wai Yee ; Assistant Professor, School of Arts, NIE

Ms. Chan Guet Har, Assistant Manager, Public Relations, NIE